

妙昌寺

妙昌寺は、1300年代後半から松平郷を治めていた松平家と深いつながりのある、曹洞宗の小さなお寺です。お寺は王滝溪谷にあり、苔むした石垣で固められた棚田の上に建っています。溪谷の入り口にある駐車場から川沿いの坂道を歩いて、数分のところにあります。建物は1854年に建てられた本堂と、溪谷に面したやや古い門、そして鐘楼があります。妙昌寺には住職が常駐していないため、本堂は通常非公開となっています。

寺は1350年代に旅の禅僧によって創設され、当初は孤独な精神修行のための場所でした。その後、松平家の祖である松平親氏（伝1394年没）がこの寺を自分の保護下におき、寺を拡張し、初めて常設の堂を建立しました。それ以来、妙昌寺は松平家の庇護を受けてきました。

寺の宝物の中には、松平元康（1543-1616）、のちに徳川家康と名乗って幕府を開いた武将の命令が書かれた木札があります。この命令は、1557年から1563年の動乱期に発令されたと考えられていて、妙昌寺の境内での武力行使を禁止しています。妙昌寺は、近隣で戦さがあった場合には、村人が門の中に身を寄せることができる、安全な場所として機能していたことを示しています。